



## 飲食や観光、企業もプロデュースする “主催者”がビジネスを生み出す

株式会社ブルースカイ CEO 貞末 真吾氏

### 「センスの良い質屋」という アパレルショップからスタート

泊まれる立ち飲み屋『STAND BY ME』、神社境内にあるフォトスタジオ『Acestudio』、海岸沿いに広がるフォトスポット『ジハンゲン』など、さまざまな事業を手がけるのが福岡市中央区今泉の株式会社ブルースカイです。その歴史の始まりは、アパレル店舗でした。

代表取締役の貞末真吾さんの家業はメーカーズシャツ鎌倉。初の地方出店のために福岡と関わりを持ち、縁あって移住することになったといいます。新たな土地で始めたのは、「センスの良い質屋」をコンセプトに掲げたヴィンテージショップでした。「もともとアパレルで働いていたので、関連する事業からスタート

しました。ただ、ほかの人がやっていることを真似しても面白くない。そこで新しい店舗づくりとして、おしゃれな店構えと手厚いサービスを兼ね備えた質屋を目指しました」と貞末さん。

2012年に『Acebuddy』の名前で福岡市中心街の上人橋通りに出店し、翌年には東京の代官山に2号店をオープン。その後も各所の商業施設でポップアップショップを展開するなど、好評を博しました（2015年事業売却済）。その傍らで貞末さんが取り組んだのが、フォトスタジオ事業だったといいます。

「知人からもらったフォトスタジオのアイデアを、肉フェスなどのイベントをお手伝いしていた鳥飼八幡宮で実現しました。当時は、この事業のピークポイントがいつかもわからずに始めたこと

で、半年間の売上は3万円。いよいよまずいというところで七五三のお参りで需要が高まり、九死に一生を得ました」と貞末さんは振り返ります。現在はスタジオも8店舗に拡大し、デジタルシフトできていない神社の集客にも協力することで売上は年々拡大する一方、新しい企画は止まりません。

東京の知人から福岡のホテルの予約が取れないという話を聞いた貞末さんは、自身の事務所に泊まってもらおうと寝具などを手配したものの、使用する機会はほぼゼロ。アメリカで流行していた民泊サービスに倣ったところ、世界中から観光客が訪れるように。貞末さんは「一緒に鍋を囲んだり、食事に行ったりする中で宿泊事業が楽しくなり、『STAND BY ME』の構想に着手。

### 【プロフィール】

神奈川県鎌倉市生まれ。家業であるメーカーズシャツ鎌倉で常務取締役を務めた後、福岡に移住。2012年に株式会社ブルースカイを創業し、アパレルをはじめ、フォトスタジオの運営、イベント企画、宿泊施設の経営、観光事業など幅広く手がける。



1



2



3



4

1 自動販売機型のオブジェなど、フォトジェニックな写真の撮影スポット「ジハンゴン」。福岡の新たな観光スポットとして人気を博している

3 福岡市中央区大手門にある「STAND BY ME」。泊まれる立ち飲み屋をコンセプトに2017年のオープン以来、世界中から人々が集まっている

2 レモネードをはじめ、さまざまなキッチンカーも手がけるブルースカイ。「しろくまコーヒー」では、シロクマがコーヒーを手渡してくれる

4 昭和40年代のバスを改造した動くスナック「アポロ号」は、移動型スナックとして2018年から1年間営業。九州一周キャラバンなども展開

2017年に開業に漕ぎ着けました。立ち飲み屋とホステルのハイブリッド型は珍しく、店に入りきれないくらいのお客さんが来てくれました」と振り返ります。

### マネタイズの工夫で 新たな観光スポットを創出

そんな貞末さんが企画した事業の中で異彩を放つのが、福岡市西区西浦の海岸にある『ジハンゴン』です。海に向かって設置された巨大ブランコやさまざまなオブジェが立ち並び、フォトスポットとしてSNSユーザーを中心に人気を集め、オープンから4年で年間20万人以上が訪れる観光地になりました。

「祖父母が鎌倉の材木座で海の家を営んでいたこともあって、最初は海の家をつくらうと思っていました。けれど、上下水道が通っていないことがわかり、企画は頓挫。それでカフェ『サンセット』林憲治さんに相談したところ、駐車場にしたらというアドバイスをいただきました。それからは駐車場でマネタイズすることに決め、どうやったら人が集まってくれるかをクリエイターと考え、いまのジハンゴンの形ができていきました。

無人で誰もいないところに集客でき、なおかつ福岡の新しい観光スポットをつくれたという自負はあります。人を呼ぶなくて困っているという悩み事があれば、相談してほしいですね」と自信のぞかせます。

### 主催者であることによって ビジネスと人脈が繋がる

貞末さんは自身の仕事について「以前から企画屋さんと名乗ろうと思っていたのですが、さまざまな経験を経て、新しい場所を創る、人を集めるというところが自分のストロングポイントだとわかってきました。最近ではプロデュース業なんだと感じるようになりました」と話します。事実、商業施設での期間限定イベントからオフィスの移転、あるいは人材派遣会社の立ち上げなど、事業領域はとどまるところを知りません。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響によって、多くの中小企業では規模縮小などを余儀なくされる中、事業拡大の秘訣を貞末さんに聞きました。

「私はAIの会社だって、宇宙関連の会社だってつくれると思っているんですよ。

自分自身に知見はなくても、きっとできる仲間がどこかにいますから。例えば大きなIT企業の社長が、自ら光回線を敷いていくわけじゃありません。その仲間たちを加速度的に広げるためには、何かを主催すること。主催して継続することで、人と繋がり、仕事が生まれていきます」。正社員やアルバイト、業務委託契約なども含めて、50人のスタッフを抱えるブルースカイ。「人の凄いところを見極める習慣を持って仲間づくりを」と貞末さんは話します。

取材日：8月30日



株式会社ブルースカイ

〒810-0021 福岡市中央区今泉2-5-24 権藤ビル303  
http://bluesky2012.com/